

# 芙蓉会会報

編集・発行人 学校法人 横浜清風学園 芙蓉会

## 第38号

学校法人 横浜清風学園 芙蓉会  
〒240-0023  
横浜市保土ヶ谷区岩井町447番地  
TEL: 045-731-4361(代)  
FAX: 045-716-0202  
http://www.y-seifu.ac.jp/

印刷所 株式会社 横濱大氣堂  
横浜市中区真砂町4-40  
TEL: 045-641-4161  
FAX: 045-664-2483



会長  
安田 節子

同窓会の皆様におかれましては  
お健やかに過ごしてのこととお  
喜び申し上げます。

日頃は同窓会の運営にご理解  
とご支援を賜り誠にありがとう  
ございます。

昨年は学園創立百周年の記念  
行事を学園当局の実行委員会と  
協力をしながら、つつがなく執り  
行うことができました。これもひ  
とえに常任幹事や会員の皆様の  
お力添えの賜物と厚く御礼申し  
上げます。

私も就任から二期目を務めさ  
せていただいておりますが、これ  
からも皆様の助けを借りながら  
同窓会活動を更に活性化させて  
行きたいと思っております。

本年度の活動方針については、  
同窓会ホームページに掲載してお  
りますが、例年通りの計画を遂  
行してまいります。

会員参加の行事には是非とも  
皆様のご参加をお待ちしており  
ます。

活動計画については常任幹事会  
での検討を進めておりますが、今

年度は新しいメンバーを迎えて、  
次世代の若い力を吹き込んでも  
らえるように期待しているところ  
です。

同窓会活動についての情報発信  
は「芙蓉会会報」ならびに「同窓会  
ホームページ」を運用致しますが、  
新しい情報提供あるいはご意見・  
ご要望などがありましたらどう  
ぞお聞かせ願います。

新しいステージ二〇一年目の横  
浜清風に、幅広い年代の方々が  
集える会でありたいと願いつつ、  
役員一同努力して参ります。どう  
ぞよろしくお願ひ申し上げます。



校長  
植野 法 穂

昨年度の創立百周年から、早  
くも一年が経ち、横浜清風高校  
は、一〇一一年目の年を迎え  
ました。世の中では、猛威を奮つ  
たコロナウイルス感染も落ち着  
きを見せて、本来の高校生活が  
戻ってきて、行事も以前のように  
に大規模に実施することができ  
るようになってきました。そんな  
中で横浜清風も新たな教育方  
針を立てて、新時代に向かって



理事長  
眞田 有 快

### 「新理事長就任」

この度、前理事長藤井義章僧  
正の後を受け第十一代理事長に  
就任させて頂きました。私は昭  
和五十七年に高野山大学を卒業  
後、修行道場へ。そして、本山  
へ奉職。高野山在山八年間の後、  
同六十二年、自坊に帰院いたし  
ました。

又、私事ではございますが、  
横浜清風学園との関わりは満九  
十歳になる私の母が当校の前身  
船出しています。

現在の世界の状況を表すのに、  
VUCAという言葉がよく使わ  
れます。Volatility(変動性)、  
Uncertainty(不確実性)、  
Complexity(複雑性)、  
Ambiguity(曖昧性)の頭文字を  
とった言葉です。予測ができない  
未来が広がり、しかも短期間で  
大きな変化がおこる。そんな未  
来を、今の高校生、これからの  
高校生は、進んで行かなければ  
ならないのです。本校では、この

明倫女子高校に入学。後、大妻  
女子大学へ進学させて頂きまし  
た。又、私の長男(平成六年生)  
も当校に入学させて頂きました。  
その当時は川口益生理事長、齋  
藤一教頭で、各先生方には大変  
お世話になったことを覚えてお  
ります。その折、評議員をし、後、  
理事、後援会会長をさせて頂き、  
創立百周年には、実行委員長を  
仰せつかりました。関係者の皆  
様には大変なご尽力をいただき  
ましたことを感謝申し上げます。

過去、初代理事長より藤井前  
理事長までの百年間には大変な  
苦慮があられた事をお察しし、  
それらを踏まえた上で、今日有  
る事を「肝に銘じ」現学校長、現  
職員の方々共々協力し学校運営  
を勧めさせて頂きたい所存で  
ございます。

ような未来をしっかりと生き抜  
いていくため、自ら考え判断し、  
行動できる力と、多様性を受け  
入れながら共生していく心を育  
てていくことを基本的な方針と  
して、新たな具体的な教育を進  
めていきます。建学の精神をこ  
れからの時代に生かしながら、  
より良い学校を目指して行きま  
すので、卒業生の方々には、学  
校の様子を見届けて頂きながら、  
後輩達に向けてご助言やご支援  
を頂ければ幸いです。





学園創立よりすでに百年が経過し、卒業生数二万五千人を超えた会員を有する同窓会芙蓉会の歴史を改めて振り返ってみることにします。

大正十二年(一九二三)横浜家政女学校の第一回卒業生・鈴木チカさんが、創立当時の思い出を「明倫学園五十年史」に語っておられます。当時は私塾のような家庭的な雰囲気な学校だったようですが、この時の卒業生らが同窓会に「芙蓉」という名を選んだとの記載があります。

発足当時は川島ソノさんが幹事役であったとの事。創立者の荒井校長夫妻を囲む、横浜家政女学校第一回卒業生の記念写真が掲載されております。

昭和二年(一九二七)明倫高等女学校として充実と発展を図り、宗教的情操と信念を教育理念とする明倫学園の基礎が築かれました。明倫高女第一回・昭和四年卒の岡田美代(旧姓・増田)さんは後に、娘さん、お孫さんと三代にわたって明倫で学ばれたご一家です。

同じく第一回卒業生の水谷トメ(旧姓・佐久間)さんは会の発足にご尽力くださり、長きに亘り会の存続を見守ってくださいました。

昭和八年(一九三三)同窓会の機関誌「芙蓉」が発刊。

「芙蓉」の名は後に本校の新聞部が発行する学校新聞「芙蓉新聞」にも形を変えて用いられていきましたが、新聞部の活動は時代の流れとともに低迷し、文芸部として発行は受け継がれていたものの、現在は部活動としては消滅しており、その名は「芙蓉会会報」として残されて今に至ります。

その間、同窓会活動は幾多の変遷を経て、同期会、同級会はそれぞれで開催されても全体としてのまとまりにはなりません。その後、第十四回卒業生の山マサ江(旧姓・榎田)さんが母校の教員として在職の折に同窓会の復活に苦心されて、同じく教職員として勤務されていた卒業生を中心に幹事を依頼しながら、会務を整えてきたことが現在の活動の礎となりました。

石橋美代子さん、橋本幸子(旧姓・福永)さん、小島節子(旧姓・佐藤)さん、高橋洋子(旧姓・西崎)さんも当時、一丸となって尽力された方々です。卒業生ではありませんが、事務室に長年勤務されていた長沢さん



芙蓉 創刊号

は同窓会事務局としての仕事を兼任してくださいました。

昭和五十年までは初代会長は吉越正子さんが長年にわたり務められました。新たに菊池富美子さんを会長として迎えて活動を再開することができました。

その後の歴代の会長名を改めてご紹介いたします。(敬称略、任期)

石川 鏡子 (一九七九～一九八七年)

板橋マサエ (一九八七～一九九九年)

石渡富美子 (一九九〇～二〇二三年)

その当時は、それまで学校事務室に任せていた名簿管理を始め、新時代に即した同窓会規約の改正に取り組み、会計面は全くのゼロからのスタートでした。

活動再開の基盤を作るには、幹事長だった佐野ヒサエさん(故人)や現・副会長の荒海由美子(旧姓・水垣)さん、坂口優子(旧姓・三枝)さんらの協力がありました。

「芙蓉会会報」の題字は板橋マサエ会長(故人)によるものです。

前会長・石渡富美子さんには、三十年も長きに亘り務めていただきました。

ここに改めてお礼申し上げます。

「明倫五十年史」を参考にして、「芙蓉会」の歩みをまとめました。資料をご覧になるには、本校図書室で閲覧できます。これを機会に母校を訪れてみてはいかがでしょうか。

また、会報創刊号から最新号までを同窓会ホームページでも読むことができますので是非ご利用ください。(安田)

### 万里一空



保健体育科 洞下 実亜

(平成三十年卒業)

平成三十年度に横浜清風高等学校を卒業し、昨年度から保健体育科の教員として勤めています。

在学中は、ダンス部と外部のダンスチームに所属し世界大会優勝することを目指して活動していました。

学校生活と部活、チーム活動全てを両立することは私にとっ

先生方のご支援のおかげで三年間続けることができ、目標だった世界大会で優勝することもできました。

教員を目指したきつかけは、この経験を通して自分自身が得たもの、また先生方にたくさんのご支援をして頂いたように少しでも今、目標に向かい頑張っている生徒たちのサポートをしたいと思っただけです。

これからも横浜清風高等学校の卒業生として日々努力し、誠心誠意努めてまいります。今後ともよろしく願っています。

### ～芙蓉会バス旅行のご案内～

「山梨県の忍野八海散策」と「河口湖音楽と森の美術館」  
今年山梨県の忍野八海散策と河口湖音楽と森の美術館(世界最大規模のダンスオルガン)美しい庭園と豊かな自然、そして心を癒やす音楽と共に小さなヨーロッパ旅行を楽しんでみませんか、皆さんのご参加をお待ちしております。



旅行日程	日程	▶ 令和6年11月10日(日)
		7時50分集合 8時出発
	参加費	▶ 9,500円(同窓会補助後の金額)
	集合場所	▶ 横浜西口方面 天理ビル前
	申込み方法	▶ 横浜清風高等学校事務室(中田宛) TEL 045-731-4361 FAX 045-716-0202 お名前、ご住所、卒業年度(年齢) 携帯番号をお知らせください。



# お世話になった先生方から

## 「感謝」



情報科 原田 奈緒美

商業科の教員として勤め始め、この春、長期に渡る教員生活を情報科の教員として卒業しました。二つの科でたくさんの方の生徒の皆さんと出会い、そして別れがありました。

新卒で不安だらけの毎日を必死に生徒と過ごした数カ月。その後は、多くの先輩方に支えられ、また生徒の皆さんからは、「エッ！どういう事!」をたくさん経験させられ、お陰で何とか教員らしくなってきたようです。この頃、学校紹介ビデオの中で生徒に「鬼ババ」と言われた事は、やっと担任として認められたようで誇らしく思えた出来事の一つです。この一言を発した卒業生は覚えていてくれるでしょうか!?

卒業間近い三月には、花束を抱えて会いに来てくれたり、真心こもった労いの言葉を添えて花束を贈ってくれた。卒業生の皆さん、数えきれない様々な場面で「先生」にしてくれて本当にありがとうございます。心から感謝!

## 日常の風景



国語科 小野沢 朝子

皆様お元気で過ごして下さるか。最早清風がとて懐かしいです。職員室では机で仕事をしている前屈みの姿があり、また話し声や笑い声が飛び交っていることと思います。教室では授業中先生の話を聞いたりする操作したり、黒板を写したり質問に答えたり、スクリーンを見たりたまには眠気に負けて起こされたり。いつもながらの清風らしい授業風景が展開されていることでしょうか。休み時間になると、のびのび会話する姿、疲れてガバツと机に突っ伏す姿、廊下でみんなでおしゃべりする姿、そして、次のチャイムが鳴る時には何事もなかったように席に座っている。……そんな当たり前のことがちゃんとできる生徒の姿が目に見えます。

今思い出すのは、そんな何でもない日常の風景ばかりです。それは何と健全で良識的でかけがえのない時だったでしょう。長年そういう日常を送ってこられたことに感謝します。ありがとうございました。

## 感謝の十五年間



理科 二村 幸男

出身地である埼玉県の教員採用試験に落ち、どこの私学の採用試験にも受からなかった私を唯一拾ってくれたのが横濱清風高等学校でした。以後十五年間、多くの先生方に支えていただき、生徒(卒業生)やその保護者の方々にもお世話になって、なんとか勤め続けることができました。

横濱清風で定年をむかえるつもりだった私に転機が訪れたのは二〇一九年の終わり。その直後のコロナ禍もあり、紆余曲折しましたが、二年前に埼玉県飯能市に移住しました。以来二年間は片道二時間半かけて通勤する毎日。大変でしたがクラスや吹奏楽部の生徒たちのおかげでとても充実した日々で、正直、何度も離任するのを辞めたいと思うほどでした。卒業までクラスを見届けられなかったことなど心残りも多々ありますが、横濱清風で育てていただいたことを糧に、新しい学校では讃美歌を歌いながら頑張っていきます。十五年間本当にありがとうございます。

## ご退職された先生方

- 相川 弘二 (理科)
- 石山 真美 (英語科)
- 井東 瑠美 (養護)
- 江藤 糸路 (英語科)
- 加藤 朋房 (数学科)
- 佐藤 眸 (国語科)
- 佐藤 芳実 (国語科)
- 庄司 幸代 (理科)
- 椿井 和広 (英語科)
- 根本 巖 (社会科)
- 平澤 凌大 (社会科)
- 星野 明男 (社会科)
- 鳥澤 志帆 (事務職)
- 原 優子 (カウンセラー)

## お世話になった先生

### 箏曲部

箏曲部の技術指導職員として二十二年間ご尽力いただきました岩崎栄先生が令和六年三月をもってご退職されました。

岩崎先生は、本校の卒業生でもあり学生時代も箏曲部に所属され、後に母校の指導者となられ、文化祭のステージ発表、中区音楽祭の外部演奏会の出演へと生徒の育成に貢献され、大きな成果を残してくださいました。

長きにわたり、ご指導くださりありがとうございました。

## 訃報

◆黒沢 全紹 前学校長  
令和六年七月ご逝去  
昭和三十七年〜平成十三年勤務  
社会科教諭を経て、平成八年校長職に就任。  
昭和四十年ソフトボール部を立ち上げ、創部六年目に関東大会出場を成し遂げられました。

◆安達 眞識 前学校長  
令和五年十月ご逝去  
平成十三年〜平成二十一年勤務  
謹んでお知らせ申し上げますと共にご冥福をお祈りいたします。

## 清風祭のご案内

文化祭：9月21日(土) 10:00~14:00

- ◆お車でのご来場はご遠慮願います。
- ◆校舎内・外“禁煙”です。ご協力ください。

おしるこの販売しています!



### 令和5年度 横浜清風高等学校同窓会会計報告書

収入の部

R6.3.31 (単位: 円)

項目	予算額	収入額	備考
前年度繰越額	14,262,438	14,262,438	
令和5年度年会費	300,000	266,000	@ ¥1,000×266名
令和5年度卒業生加入金	1,645,000	1,645,000	@ ¥5,000×329名
郵送代補助金	0	450,000	学校より会報郵送料一部補助
預金利息	200	47	定期預金・普通預金
収入合計	1,945,200	2,361,047	
合計	16,207,638	16,623,485	

支出の部

項目	予算額	支出額	備考
行事費	250,000	204,093	会長・副会長送別会、バス旅行補助 他
慶弔費	50,000	49,500	100周年式典生花代・卒業生生花代
クラブ援助費	300,000	270,000	陸上/バトン/男子バスケット/ソフトボール/スケート
通信費	800,000	789,361	会報郵送代
会議費	150,000	129,284	幹事会茶菓・交通費
名簿整理費	70,000	49,876	会員新規登録・変更等手続き
会報費	1,000,000	898,285	会報印刷・振込用紙・封筒
事業費	800,000	599,560	新入生数珠袋贈呈・HP更新料
振替受払手数料	10,000	7,920	年会費振替受払手数料
幹事総会費	150,000	106,278	幹事総会通知はがき等郵送料・タックシール
100周年祝い金	3,000,000	3,000,000	100周年学校へ祝金
支出合計	6,580,000	6,104,157	
次年度繰越額	9,627,638	10,519,328	
合計	16,207,638	16,623,485	

上記の通り報告いたします。

令和6年7月1日

台帳と相違ないことを確認いたしました。

会計監査員

浅野由里

### 令和6年度 同窓会会計予算書

収入の部

R6.4.1 (単位: 円)

項目	予算額	備考
前年度繰越額	10,519,328	
令和6年度年会費	300,000	@ ¥1,000×300名
令和6年度卒業生加入金	2,625,000	@ ¥5,000×525名
預金利息	43	定期預金・普通預金
合計	13,444,371	

支出の部

項目	予算額	備考
行事費	250,000	文化祭模擬店・競馬バス旅行・送別会
慶弔費	50,000	卒業式生花代・香典
クラブ援助費	300,000	関東大会 その他
通信費	800,000	会報郵送代
会議費	150,000	幹事会茶菓・交通費等
名簿整理費	70,000	新規会員登録料・データ修正
会報費	1,000,000	会報印刷・振込用紙・封筒他
事業費	600,000	新入生数珠袋・HP更新料
振替受払手数料	10,000	年会費振替受払手数料
特別会計繰入金	5,000,000	総会開催費用
支出合計	8,230,000	
次年度繰越額	5,214,371	
合計	13,444,371	

特別会計

総会積立金	5,000,000	総会開催費用
-------	-----------	--------

### 同窓会芙蓉会ホームページ

ご存じですか? 横浜清風高等学校のホームページのなかに同窓会のボタンがあります。過去の会報や懐かしの校歌も聴くことができます。これからもホームページを活用し、同窓生の皆様に役立つ情報を発信していきたいと思っております!



<https://www.ys-fuyoukai.jp>



### 令和6年度 会費納入のお願い 年会費 1,000円

※同封の振込用紙にて、12月末日までにお振込をお願いいたします。

※住所変更などございましたら、振込み用紙の通信欄でお知らせください。

(振込用紙以外(メール、お手紙等)での変更のご連絡は、卒業年度・生年月日を必ずご記入ください。)

### ～インフォメーション～

学校説明会 午前の部 10:00～11:15

午後の部 13:30～14:45

10/26(土) 午前 午後 11/9(土) 午前 午後

11/23(土)祝 午前 午後 11/30(土) 午後

夜間相談会 11/15(金) 17:30～19:00

※説明会等の参加にはホームページからの事前予約が必要です。

編集後記

本校は百周年を経て、新たな一歩を踏み出しました。同窓会の活動もより力を入れていきたいと思っております。今年度の文化祭では、念願のおしるこ販売を再開します。是非、お立ち寄りください。

又、今後もホームページを通して、会報や卒業生の活躍をお届けしていきます。これからもよろしく願います。

第10期生 大石 茜(旧大胡級)

